

とちぎ義博 議会レポート

第27号 2005年 春号
発行者: 福岡市議会議員 栃木義博

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-13-305
TEL.845-7669 FAX.845-8511
E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

ホームページを開設しました
http://www11.ocn.ne.jp/~tochigi/

福岡市長あて(中元副市長)に激甚法適用など国・県への
支援要請を申し入れる(3月22日)



3.20福岡県西方沖地震

激甚法など支援要請を申し入れる

震度6弱という激震が福岡市を襲いましたが、多くの市民にとっては未経験の出来事でありました。お亡くなりになられた方のご遺族に心より哀悼の意を表します。また、被災された市民の皆様にお見舞い申し上げます。

民主党は震災翌日に対策本部を立ち上げ、被災住民の支援に動き出しましたが、とちぎ義博はこれと連携して活動しました。国による支援が喫緊の課題であると考え福岡市長に、①激甚災害法の適用を早急に国・県へ働きかける②被災状況の把握と食料、防寒など被災・避難住民の安全に万全の対策を講じる③独居老人、要介護・要支援者、子どもなどの状況把握とケアに努めることを緊急に申し入れました。引き続き、被災住民の住宅再建や生活支援など復旧・復興に取り組めます。



→海岸から漂着してきた人びと(福岡タワー付近)と激甚化した道路(3月20日、震災の29分後に撮影)



→岡田克也民主党代表と被災地(玄界島)にて視察(3月27日)

3月予算議会

平成17年度の福岡市予算を審議、決定する予算議会が3月7日から28日にかけて開かれました。福岡市は、①次世代育成支援の推進、②地域とともに取り組む防災対策の強化、③都心部再生、④東アジアとの交流機能のさらなる強化の4分野について、17年度で戦略的な取り組みを進めるとしています。

そこで、とちぎ義博は3月9日の本会議で、紙面記事のほか、「新都心構想とまちづくり戦略」「コミュニティ・ビジネスによる地域再生支援」「政府の三位一体改革による財源不足とごみ有料化」について2期目の後半を迎えた山崎市長の市政方針を質しました。

人材集積に向けて、産学連携、住環境など都市の魅力づくりへ!

～持続可能な成長戦略、東アジアにらんで～

とちぎ義博は、中国への生産基盤や管理機能の移転で、九州の中核都市として成長の原動力であった支店経済が空洞化し始めているのではないかと、この観点から、福岡市がどのようなアジア戦略を打ちたてようとしているのかを質しました。

(福岡市)企業の再編などにより本市の支店型経済にも影響が生じている。いっぽうで、東アジア市場との取引を所管する支店の立地など期待できる動きがある。本市の情報・デザイン関連産業の集積は高いが、いっそう地域から足腰の強い企業を創出し、自立した経済構造への転換が必要。

そのためには人材の集積が重要であり、大学など研究・教育機関の立地、産学連携など知的交流の充実、良好な住環境、文化・芸術・エンターテインメントなどの魅力づくりをすすめる。

百道浜の中学校用地、処分方針固まる!

～公募制の採用、現計画の尊重など～

福岡市は昨年、百道浜の中学校設置を断念しましたが、中学校用地の処分と利用法に市民の関心が集まっています。とちぎ義博は、中学校設置の必要性が今後もないことを再確認するとともに、用地処分にあたっては住民意見の聴取と土地利用計画の範囲内での処分など透明性のある公正な手続きを求めました。また、世代間交流の促進やライフサイクルに必要な高齢者福祉施設、保育園・児童施設の設置など、住民が住み続けることのできる百道浜まちづくりの将来に寄与する土地利用となるように意見を述べたところです。4年間にわたり百道浜公民館を介して議論を重ねてきた住民の皆さんの思いや願いを質したところ、中学校用地の処分と利用の方法論が整理されました。以下は福岡市の回答要旨です。



↑駐車場として暫定利用されている百道浜の中学校用地

- ①平成17年度中に事業者を公募し、旧中学校用地を処分する。
- ②選定委員会を設置し、土地処分の公募要綱を定める。
- ③公募要綱を策定するにあたり、地元住民の意見を聞く。
- ④現在の土地利用計画(教育施設用地)を尊重して土地処分する。

第3子優遇事業をスタート!少子化対策で

「1.29ショック」は年金法案をめぐる国会論戦で話題となりましたが、予想を超える少子化の進行は年金、介護、医療などの社会保障制度全般の根幹を揺るがし、市民に大きな関心と不安を抱かせています。これまでの保育行政中心の少子化対策から「産める」環境づくりへ施策のウイングを広げる必要があるという観点から質問しました。

(福岡市)次代の親となる若年世代の自立に向けた就労支援や子育てしやすい職場風土づくりを啓発するとともに、保育サービスの充実など仕事と子育ての両立支援のための環境づくりに努める。また、子育て交流サロンや子どもプラザの開設など地域における子育て支援に特に力を入れ、子育ての孤立感や負担感に対応するとともに、小学校就学前の3年間を無料とする第3子優遇事業など新たな次世代育成支援策を実施する。

透析患者さんの通院移送OKへ!

～会費制で無償運送に～

昨年3月から道路運送法の解釈が拡大し、NPOなど公益法人による低料金の有償運送も条件を満たせば認められることになりましたが、「条件のハードルが高く、このまま送迎支援を続けられれば法令違反として摘発されるのではないか」と市内で唯一、透析患者さんの病院送迎を支援している特定非営利活動法人・通院送迎センター「ステップ福岡」(岩崎憲理事長、会員110名)の皆さんは不安がられています。一日おきの人工透析を必要とする患者さんたちの時間の制約と経済負担を考えれば、安心して通院送迎する切迫

した必要があると考え、福岡市の対処方針を質しました。

福岡市によると、「ステップ福岡」が利用のたびに定額の実費相当分を会員の患者さんに負担していただく現行の方法から、無償運送行為とみなされる会費制に移行する方向で同会に助言したいと答えました。また、とちぎ義博が会費制による運送行為について、監督官庁に適法性の担保を求める必要はないのかと質したのに対して、理解は得られるものと判断していると明言しました。



↑ステップ福岡の通院車両を利用する患者さん

福祉のまちづくりで意見交換

日本オストミー協会福岡市支部(中山需支部長)の皆さんと福祉のまちづくりについて意見交換。この日は、オストメイト(人工肛門・膀胱を造設した障害者)対応トイレが地下鉄七隈線全駅に設置されたお礼に山崎市長を表敬訪問されました。



(1月27日、市庁舎)

とちぎ義博と行く浜風バスツアー

爽やかな風に吹かれながら、緑の大草原を楽しむ
初夏の阿蘇路・白川水源へ!

5/21
(土)

とちぎ義博・浜風シリーズの恒例となったバスツアーを今年も実施します。今回は初夏の阿蘇路・白川水源をとちぎ義博と訪れます。ご家族、ご友人と爽やかな風に吹かれながら、緑の草原と大パノラマをお楽しみください。



期 日	出 発
午前10時30分 サントリー九州熊本工場(見学)	①西新バレス東側(ミスタードーナツ横) 午前8時15分…集合(時間厳守) 午前8時30分…出発
正午前 阿蘇ミルク牧場(見学・昼食)	②西部ガスミュージアム西側(百道浜) 午前8時15分…集合(時間厳守) 午前8時30分…出発
午後2時 白川水源(見学、水の手持帰り可)	
午後3時40分 阿蘇ファームランド(買物)	
午後6時 帰着予定	

参加費

大人(中学生以上) ……………5,000円
小人(4歳~小学生) ……………4,000円
幼児(4歳未満) ……………無料

※なお、参加費はバス料金と昼食代(バーベキュー・ソフトドリンク)、水源入場料および傷害保険料で、昼食時のアルコール代、その他の費用は含まれていません。

申込み締切

5月15日(日)までにお名前、年齢、連絡先、参加人数およびご希望の集合場所を右記にご連絡ください。なお、参加費は当日の集合場所で徴収いたします。

TEL 090-1974-4878 (栃木)
FAX 845-8511
Eメール tochigi@bronze.ocn.ne.jp

☆ボランティアの皆さんを募集します☆

この議会レポートをご町内やマンションに配布するご協力をお願いいたします。(ご連絡 845-7669)